

鳥取県新型コロナウイルス感染症対策本部（第２３回） 第３７回鳥取市新型コロナウイルス感染症対策本部 会議 合同会議

日時：令和２年７月２８日（火）午後９時～

場所：鳥取県庁災害対策本部室（第２庁舎３階）

出席：知事、副知事、統轄監

令和新時代創造本部、危機管理局、総務部、福祉保健部

中部総合事務所、西部総合事務所、日野振興センター

鳥取市長、鳥取市保健所

※鳥取市テレビ会議参加者

副市長、総務部長、危機管理部長、税務・債権管理局長

人権政策局長、企画推進部長、企画推進部経営統轄監

市民生活部長、環境局長、福祉部長、健康こども部長

経済観光部長、農林水産部長、都市整備部長

下水道部長、教育長、病院事業管理者、水道事業管理者

市議会事務局長、鳥取市各総合支所長、消防局長

議題：◇新型コロナウイルス感染症陽性者の発生について
◇その他

7例目

1 患者の状況

性別：男性

年代：20代

居住地：鳥取市

2 経緯

3 現在の患者の状況

対 応 方 針

1. 患者対応

感染症指定医療機関に入院のうえ、治療を継続

2. 濃厚接触者等への対応

- 積極的疫学調査を実施し、濃厚接触者等を特定
 - 最終接触日より2週間の健康観察
 - 外出自粛要請
- 家族等の濃厚接触者や検査を希望する方等に対し、PCR検査を実施
- 感染源特定のため、発症前2週間の行動歴を調査し、関係する都道府県に情報提供を行う。

鳥取市コロナシグナルについて

市内で新規陽性患者の発生に伴い鳥取市コロナシグナル

オンの期間を8月11日までに変更。

鳥取市コロナシグナル

☆新規陽性患者の発生に合わせた市の対応を共有し、新型コロナウイルス感染症の効果的な感染防止、感染拡大防止対策に努める。

シグナル		オフ	オン
新規陽性患者		なし	あり
活動制限	イベント・会議等	・手指消毒やマスク着用、発熱等の症状がある者は外出等を避けるなど、「新しい生活様式」に基づく基本的な感染防止策を徹底すること。 ・イベント等の主催者や出演者は「業種別ガイドライン」等に基づく行動、参加者の連絡先把握、接触確認アプリの周知、イベント・会議等前後の感染対策（行動管理含む）の呼びかけを行うこと。 ・イベント等の主催者は、特に、全国的な移動を伴うものには格段の注意をはらうこと。 ・イベント等の参加者には、自身が感染対策を徹底していても、感染リスクはあることを周知すること。 また、発熱等の症状がある者はイベント等に参加しない措置を講じること。	感染が確認された次の日から起算して14日を経過しない間に開催するイベント等は、原則中止又は延期とする。 ただし、国・県のガイドラインの実践等により、感染予防が図られる場合はこの限りではない。
	市有施設	— 感染発生を予防する事項の呼びかけ ・手洗い励行、マスク着用 ・換気の徹底	感染者が発症2日前以降に使用した施設は施設内の消毒が完了するまで休館とする。再開に当たっては接触者（施設職員等）の陰性確認など感染のおそれのない運営環境を要件とする。 その他の施設については、イベント・会議等の開催に関する基本的な考え方を踏まえ施設の開館継続・休館の判断を行う。ただし、福祉施設等臨時休業とする事で市民生活に重大な影響を及ぼす施設及び屋外スポーツ施設、公園、利用者が地域住民に限られ、かつ利用者が特定される施設はこの限りではない。

※陽性患者の確認状況、行動歴などにより対応を変更する場合がある。

※新規陽性患者確認された次の日から14日間新たに陽性患者が確認されない場合オフにする。

鳥取県版新型コロナウイルス警報

地域	発令区分	発令期間
東部	注意報	8月11日まで (本日から14日間経過する日まで)
中部	—	—
西部	—	—

※発令期間は状況に応じ延長

【発令に伴う対応】

- 保健所に疫学調査応援職員を派遣
- 医療・福祉施設に施設内感染対策の確認を要請
- 入院協力医療機関に病床確保の準備を要請

鳥取県版 新型コロナ警報の本運用について

県として新型コロナウイルスの感染拡大リスクの評価基準を設定し、県民、企業、医療機関等にとっても分かりやすい指標として共有することにより、新型コロナウイルス対策を効果的に展開していくとともに、経済、社会活動や医療提供体制の持続化、安定化を図る。

<鳥取県版新型コロナ警報>

区 分		注意報	警報	特別警報
指 標	新規陽性患者数	1人 (東・中・西部いずれか)	全県で6人／週 (東部 3人、中部 2人、西部 3人でも発動)	
	感染経路不明等	—	感染経路不明などで感染拡大のおそれ	
	病床・人工呼吸器	—	—	どちらかで 稼働率 50%超
活動制限	外出・イベント・施設	○感染拡大を予防する事項の呼びかけを強化 ・手洗い励行、マスク着用 ・換気の徹底 ・施設内の消毒	○発生施設に関係する箇所、3密な場所 ○状況に応じて不要不急の外出自粛を要請 ○比較的規模の大きなイベント等から順次制限 ○必要性があると認められる業務や施設に限って要請	○8割の接触削減(生活維持に必要なものを除く外出自粛)
	学校	○感染者の学校休業が基本	○休業、分散登校等(全県も)	○全県で休業
	保健所	○疫学調査応援職員を派遣	○疫学調査応援職員を派遣 ○相談センター応援職員を派遣 等	
医療強化	医療・福祉	○施設内感染対策の確認 ○病床確保の準備 等	○施設内感染対策の徹底 ○必要物資の送付、空床確保 等	○病床・人工呼吸器 緊急調達 ○施設への医療人材の派遣 等
要請の法的根拠等		協力依頼 等	特措法第24条第9項による要請 等	特措法第45条も発動 等

県民の皆様へ

- ◆全国では大都市を中心に市中感染が広がっています。
接待を伴う飲食店など特定のお店にとどまらず、お知り合い等との会食であっても飛沫感染した例も多発しており、どういう場所で感染しても不思議ではなくなっています。
- ◆感染が広がっている地域のお知り合い等との県内での会食や飲み会も控えていただきますようお願いいたします。
- ◆「新型コロナ克服3カ条」を守り、「三つの密」を避ける、人と人との感染防止距離(概ね2メートル)を取る、距離が取れない場合のマスクの着用、こまめな「手洗い」、「こまめな換気」などの感染予防に万全の注意を払っていただきますようお願いいたします。



県民の皆様へ

- ◆鳥取県東部では新型コロナ注意報が発令中です。
- ◆今後、患者の行動歴をもとに接触者の確認を行います。
- ◆県民の皆様にあつては、県のウェブページなどから正確な情報を確認し、不確かな情報に惑わされることなく、冷静な行動をとっていただくようお願いします。
- ◆風邪症状や発熱、味覚・嗅覚に違和感が出たら、外出は控え、まず、「発熱・帰国者・接触者相談センター」にご相談ください。
電話：0857-22-5625(鳥取市保健所)
0858-23-3135・0858-23-3136(倉吉保健所)
0859-31-0029(米子保健所)
- ◆医療機関を受診したいと思ったとき、事前に電話して指示に従うようにしましょう。
- ◆県では、全庁をあげて感染拡大の防止策を強化するとともに、県民生活・県民経済の安定を確保するための取組を進めていきます。

感染拡大している地域における外出にあたってのお願い

- ◆鳥取県では、県外との往来に注意すべき地域として「感染警戒地域」、「重要感染警戒地域」としてお知らせしていますが、さらに注意すべき地域として「特別感染警戒地域」を設定し、県民の皆様にお知らせすることとします。

【特別感染警戒地域】(17都府県)

埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、岐阜県、愛知県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、福岡県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

【重要感染警戒地域】(6県)

栃木県、山梨県、静岡県、岡山県、広島県、佐賀県

【感染警戒地域】(16道県)

北海道、宮城県、秋田県、茨城県、群馬県、富山県、石川県、福井県、長野県、三重県、島根県、山口県、徳島県、愛媛県、高知県、長崎県（R2.7.28現在）

- ◆県民の皆様におかれましては、感染が拡大している地域に行かれる場合は、「三つの密(密閉、密集、密接)」を避ける、人と人との感染防止距離(概ね2メートル)を取る、距離が取れない場合のマスクの着用や手洗いなどの感染予防に万全の注意を払っていただきますようお願いいたします。

東京都にお出かけの場合

◆7月23日に、366人と過去最多を大幅に更新する感染者が確認されました。7月28日には新たに品川区にある「ゼームス坂通り」付近の飲食店街でクラスター(感染者集団)が発生するなど、266人の感染者が発生しています。

もはや当初言われていた若い世代のみならず幅広い全年代に広がり、最多の新宿区はもちろんのこと、23区全体が顕著に陽性判明が増加しているほか、多摩地域にも感染が広がっています。

感染の場所も、従来から指摘されてきた新宿等の接待を伴う飲食店にとどまらず、既に市中感染が広がっている状況となってきました。どういう場所で発生しても不思議ではなくなっています。店を利用する人は、東京都の「感染防止徹底宣言ステッカー」のない店の利用は控えるなど、十分に注意しながら、行動してください。

◆現状では、特別の注意を払わなければならない段階に入っていると考えられ、東京都へお出かけの際には最大限警戒して、自分の健康状態はもとより利用する施設の感染防止対策を確認し、その必要性を判断し、「三つの密(密閉、密集、密接)」を避ける、人と人との感染防止距離(概ね2m)を取る、距離が取れない場合のマスクの着用や手洗いなど、他の地域へ行く時よりもさらに感染予防に万全の注意を払っていただきますよう強くお願いします。

例えば、お知り合い等との会食であっても飛沫感染した例も多発しており、特定の地域へ行かなければよい、ということでは十分な対策とは言えないことにご留意ください。

なお、小池都知事から都民には外出自粛が呼びかけられています。

※注意事項については、随時HPでお知らせします。

愛知県にお出かけの場合

◆名古屋市中区錦に加え、栄、大須、新栄の3地区のカラオケバーや会員制クラブ等でクラスター(感染者集団)が発生しました。このような飲食店への外出を控えてください。

7月28日に初めて100人を超え、過去最多となる110人の感染が確認されました。愛知県内では7月に入って急増し、50人を超えたのは、7月21日から8日連続で、ほぼ全域の41市町、30代以下の若い世代で感染が拡大しています。

◆感染の場所も、従来から指摘されてきた接待を伴う飲食店にとどまらず、既に市中感染が広がっている状況となってきました。どういう場所で発生しても不思議ではなくなっています。

◆現状では、特別の注意を払わなければならない段階に入っていると考えられ、愛知県へお出かけの際には最大限警戒して、自分の健康状態はもとより利用する施設の感染防止対策を確認し、その必要性を判断し、「三つの密(密閉、密集、密接)」を避ける、人と人との感染防止距離(概ね2m)を取る、距離が取れない場合のマスクの着用や手洗いなど、他の地域へ行く時よりもさらに感染予防に万全の注意を払っていただきますよう強くお願いします。

例えば、お知り合い等との会食であっても飛沫感染した例も多発しており、特定の地域へ行かなければよい、ということでは十分な対策とは言えないことにご留意ください。

※注意事項については、随時HPでお知らせします。

大阪府にお出かけの場合

◆7月22日に初めて100人を超え、7月28日に過去最多となる155人の感染が確認されています。

夜の繁華街を訪れるなどした30代以下の若い世代で感染が拡大し、そこから40代以上の中高年層で広がっています。

飲食店での友人らとの飲み会、会食を通しての感染も増えてきており、感染の場所も、従来から指摘されてきた接待を伴う飲食店にとどまらず、既に市中感染が広がっている状況になってきました。どういう場所で発生しても不思議ではなくなっています。店を利用する人は、大阪府の「感染防止宣言ステッカー」のない店の利用は控えるなど、十分に注意しながら、行動してください。

◆現状では、特別の注意を払わなければならない段階に入っていると考えられ、大阪府へお出かけの際には最大限警戒して自分の健康状態はもとより利用する施設の感染防止対策を確認し、その必要性を判断し、「三つの密(密閉、密集、密接)」を避ける、人と人との感染防止距離(概ね2m)を取る、距離が取れない場合のマスクの着用や手洗いなど、感染予防に注意を払ってください。

例えば、お知り合い等との会食であっても飛沫感染した例も多発しており、特定の地域へ行かなければよい、ということでは十分な対策とは言えないことにご留意ください。

※注意事項については、随時HPでお知らせします。

福岡県にお出かけの場合

◆福岡市中洲のキャバクラのほか、新たに中央区のダンスクラブでクラスター(感染者集団)が発生しました。このような飲食店への外出を控えてください。

7月26日には、過去最多となる90人の感染が確認され、6日連続で50人以上の感染者が確認されています。30代以下の若い世代で感染が拡大しています。

北九州市や久留米市、糸島市でも感染確認されています。感染の場所も、従来から指摘されてきた接待を伴う飲食店にとどまらず、既に市中感染が広がっている状況となってきました。どういう場所で発生しても不思議ではなくなっています。

◆現状では、特別の注意を払わなければならない段階に入っていると考えられ、福岡県へお出かけの際には最大限警戒して、自分の健康状態はもとより利用する施設の感染防止対策を確認し、その必要性を判断し、「三つの密(密閉、密集、密接)」を避ける、人と人との感染防止距離(概ね2m)を取る、距離が取れない場合のマスクの着用や手洗いなど、感染予防に注意を払っていただきますようお願いします。

例えば、お知り合い等との会食であっても飛沫感染した例も多発しており、特定の地域へ行かなければよい、ということでは十分な対策とは言えないことにご留意ください。

※注意事項については、随時HPでお知らせします。

県庁の対応

○土日を含め常時30名の応援態勢で鳥取市保健所を支援

疫学調査への応援のほか、検体搬送、その他の応援を行うための態勢を構築済み。

○県庁東部地区の職員の対応

東部地区で注意報が発令中であり、また感染者の発生が続いていることから、マスク着用、手指消毒など感染防止対策をさらに徹底すること。